

議会だより

発行／鹿児島県瀬戸内町議会 編集／議会報編集委員会 〒894-1592 鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋船津 23 番地



阿本名海岸

山本 美帆さん(35)

八年前、夫の転勤と共に阿本名に移り住んだ。

それまで東京で仕事をしていたので、奄美にきて、めざしていたキャリア（知識・経験）を失い、知人友人もない新たな生活に不安を感じていた。

また、子どもを産み、家の中で過ごすことが多くなったことに、ストレスを感じるようになってきた。

そうしているうちに、瀬戸内町の人たちとも知り合い、交流するようになった。

鹿児島の大学時代に、スキューバダイビングのために北大島の海には親しんでいたが、瀬戸内町の人たちとお付き合いするようになって、なぜか深みにはまりこんでいった。

いまは、住みよいまちづくりに貢献したいとの思いから、阿木名の人々の協力を得て貸家を模様替えし、住民のさまざまな交流の機会を提供する場になっている。

こんなことを決めました!

第3回定例会

9月8日~18日

第3回（9月）定例会では、補正予算議案9件、契約議案2件、条例議案6件、同意議案1件、認定議案11件、その他2件の計31件の議案を審議し、それぞれ可決しました。

また、令和元年度各会計決算議案については、決算審査特別委員会（委員長 池田啓一・副委員長 元井 直志）を設置して審査を行い、最終日に委員長から審査報告がなされ、意見書（次ページに掲載）を町当局へ提出しました。（各会計決算額については町広報紙に掲載されているため、割愛しました）

主な議案の要旨は次のとおりです。

補正予算

一般会計補正予算 (第5号)

●歳出について

教育費の小学校費に、2265万5千円、中学校費に948万円を公立学校情報機器購入事業として追加しました。災害復旧費の農林水産業施設災害復旧費に7647万円、公共土木施設災害復旧費に4500万円を追加した議案を原案可決しました。

●歳入について

国庫支出金の災害復旧費国庫負担金に5900万円を追加しました。

繰入金金の財政調整基金繰入金に9762万円を減額し、公共施設維持管理基金繰入金に

3796万円を追加した議案を原案可決しました。

契約

●学校情報通信ネットワーク環境整備事業業務委託契約の締結について

本事業は、教育の情報化「GIGAスクール構想」の実現に向けて、各小中学校の校内通信ネットワークの整備を行うため、ネットワークセキュリティに精通し運用後のサポーターを任せられ、個人情報漏えいセキュリティ事故を未然に防ぐために情報マネジメント認証、プライバシーマーク登録等の資格を持つ(株)南日本情報処理センターと9746万円で8月24日に仮契約した契約議案について審議し、可決しました。

教育委員会委員の任命

●現教育委員会委員の「平島さより」氏の任期満了に伴い、新たに「関瑞代」氏を委員として任命する議案について審議し、同意しました。

瀬戸内町子ども医療費助成条例の一部改正

●鹿児島県が令和3年4月より子ども医療費の無償化について、対象を住民税非課税世帯の未就学児から高校生まで拡充することに伴い、現在、中学生までを対象としている子供医療費無償化の対象を、課税世帯を含めた全世帯の高校生まで拡充するための改正について審議し原案可決しました。

令和元年度瀬戸内町各会計決算審査特別委員会審査意見

1. 税金及び各種使用料の未納者に対しては、重要性・必要性を文書配布されたい。
2. 国・県の補助が期待できる事業は、大いに活用されたい。
3. 高額な不用額や翌年度への繰り越しの件数が多い。今後は削減に努力されたい。
4. 鹿児島・喜界・知名航路については、生活航路としての充実強化及び奄美群島ホッピングツアー（島々を船等で巡る）等、観光航路としての可能性について協議されたい。
5. 有害鳥獣対策については、農作物の収穫量の増進、住民のストレス解消等にむけて猟友会と協議し、改善を図られたい。
6. 肉用牛子牛生産については、飼養頭数の維持・増頭を推進すると共に、コロナ禍の影響を受けた畜産業の生産基盤の立て直しと、持続化対策に鋭意取り組まれたい。
7. 観光施設整備については、全てのトイレの水洗化など観光立町の名に恥じない対策を急がれたい。
8. 阿木名校区の通学体制については、未就学児もあり、児童生徒数の増も見込まれるので、節子からのスクールバスの運行を図られたい。
9. 町内の小中学校及び古仁屋高校間での交流と連携を密にし、古仁屋高校の振興対策につなげられるよう努められたい。
10. 小規模校の交流学习、集合学習を増やし、少人数学校の課題克服に努められたい。
11. 加計呂麻島・請島・与路島の離島医療の充実強化と格差是正に鋭意取り組まれたい。



決算審査中の委員会



議員の質疑に答える当局

一般質問

柳谷 昌臣 議員



新型コロナウイルス対策

柳谷 これまで、「瀬戸

内町飲食・観光業等緊急支援金」や、「瀬戸内町ささえ愛クーポン事業」

などの経済対策を行なってきたが、今なお町内の飲食業、宿泊業、観光業は客足が遠のいている。

新たな経済対策の考え

はないか、伺いたい。

町長 現在第2次コロナ対策臨時交付金の実施計画策定の作業を進めており9月中に県へ提出する予定で、総額で3億円程度の事業の実施を見込んでいます。

これらの事業を実施することで町全体に経済効果が波及していくことを期待している。

コロナ支援対策事業の実施と並行してすでに予算化されている公共事業の早期発注に努め引き続き町全体の景気の底上げ作業を平年よりも早めていきたいと考えている。

町政全般

柳谷 町民からの相談や様々な事案に対して、役場内の各課の横のつながりが十分ではないと思うが、対策強化の考えを伺いたい。

町長 町民からの相談や、様々な事案に対しての役場内の各課のつながりについては、2期目のマニフェストにおいても「職員の意識改革」及び「相談できる環境づくり」を重視し、その対策強化に努めているところである。

具体的には、「瀬戸内町職員人材育成基本方針」でめざすべき職員像の一つでもある「住民の立場に立って行動する職

員」を育成するための一つの方法「職員研修」として、「我が事・丸ごと」支え愛事業 一歩踏み込んだ窓口対応」を開催し、職員一人一人が住民の生活上の困難や生きづらさ、その背景にある地域課題を「我が事」として主体的にとらえ、役場内外の連携・協力の重要性について改めて周知及び理解の促進を図っている。

また、二つめの育成方法としての「職場環境整備」では、人事評価（能力評価）を活用し、職員の協調性、町民対応力等について、評価・指導を通して育成を図っている。

さらに、三つめの育成方法である「人事管理」では、研修受講履歴を含



渋滞の起こる三叉路

登校時の交通安全対策

め、人事評価結果を地方公務員法に基づき任用・給与等の人事管理へ反映させることで、職員の意欲向上や意識改革を進めている。

及び附属幼稚園の雨天時の登校の際には車で送っていく家庭が多く、大変混雑している。対策についての考えを伺いたい。

教育長

現状において

は、古仁屋小・中並びに附属幼稚園の正門前の道路は、幅員が狭いことをご理解いただき、交通事故及び渋滞等にならないように保護者に注意喚起をしてまいりたいと考えている。

また、雨天時等の送迎における乗降場所等の確保については、古仁屋小学校校庭を開放しているが、利便性等を考慮した乗降場所の確保について検討してまいりたい。

安和弘議員



安 この9月議会は、この議場にいる我々議員にとって任期期間における最後の一般質問となる。

今回の任期最後の一般質問にあたり、瀬戸内町を語るとき、「カケロマ」という地域を決して忘れてはならない。何かにつけ取り残されている感が出てならないこの地域に、我々は思いを寄せる

必要がある・・・と思うのである。合併当時1万人を超えていた人口が十分の一になってしまっている現実。

生活の基盤をなしている古仁屋市街地。そこへのたつた一つとも言える交通手段のフェリーかけろま。そのフェリーかけろまの欠航の多さというものがカケロマ島民を悩ませてきた。

その事に追い打ちをかける様に、この旧の盆の直近になってフェリーかけろまの機関故障というトラブルに見舞われたカケロマの人々・・・代船については「海上運送法上」事前申告なくして運航する事はできない

い・・・

と言うことで、更に島民に不利益、不自由を強いる事になってしまった。

故障、事故はいつ起こるか分からない。今後はこういう事も「想定内」であるかも知れない、という考えの上に立ち、その時にはどう対処するか。

できるだけ住民に不利益にならないよう対応すべきが行政ではないか、と考える。

町の施策

安 それでは、町の施策について伺いたい。

カケロマのスリ浜には、昭和61年からレジャー施設が開業し、多くの観光客が訪れ、利用して



復活が待たれる湯乃湯

なっている。
スリ浜のトイレ施設については、現地を確認し「古い施設」であり、改築の必要性を認識している。
今の場所ではなく、別に「適地」がないか検討中である。

については、宗教的感情や習俗を尊重し、個々の家庭において継承されていくものであるが、人口減少や高齢化、人口の流動化等が進行し、社会構造が変化する中で、地域の実情を踏まえ、検討したいと考えている。

湯の復活については、今後、その施設に関して、既存施設を購入または賃貸での改修により再興する、あるいは新築するというケースがでてきた時には、瀬戸内町企業立地支援事業、または起業家支援事業の助成金対象企業としての支援を検討してまいりたい。

安（提言）昭和の30年代、昭和湯、朝日湯、千歳湯そして湯乃湯と4軒あった時代もあった。現在は、住用、宇検村まで行く人もいると聞く。清水のZERO-GRAYTY（ゼロ・グラビティ）との話が進行中との湯乃湯さんの話もある。是非、あと押ししてほしい。

いる。それから30年余、トイレは、旧態依然として汲み取り式のままで、最近では利用しながらない人がほとんどである。今の時代にマッチした水洗式にできないか、伺いたい。

安 宇検村のほとんどの集落で「共同集合納骨堂」があるが、瀬戸内町ではその計画はないか、伺いたい。

安（提言）人口減が進み、集落墓地の管理が難しい状況になりつつある。早急な対応を望みたい。

安 古仁屋の街の中から銭湯が姿を消して久くなる。街のあちこちから、その復活を待ち望んでいる声も聞こえてくる。その方策はないものか、伺いたい。

町長 現在、商工観光課の管理する「トイレ・シャワー施設」は23箇所と

業者において管理運営されている。祭祀のあり方

町長 古仁屋市街地の銭



渡島 芳臣 議員

新型コロナウイルス対策

渡島 新型コロナウイルス感染者が増加の一途で進んでいるが、本町のウイルス感染防止対策、感染患者の病院受け入れ態勢は万全か、その内容を



イノシシに掘り返された畑

伺いたい。

町長 感染防止対策については、全住民を対象に防災無線や広報誌で新しい生活様式の徹底をお願いしている。病院の受け入れ態勢については、鹿児島県からの協力要請があり次第、対応出来るように鋭意環境を整えているところである。引き続き

農家支援

き、ウイルスへの対策として簡易陰圧室の設置や施設のゾーニングを行い、感染拡大に備え環境を整えてまいりたい。

渡島 イノシシ被害が多く報告されているが、昨年の農作物別の被害額、減少に向けた有効な取り組みを伺いたい。

学校存続

有効な対策として、寄せ付けない、侵入を防止する、個体数を減らす、この三つの取り組みを地域住民の協力を得ながら推進してまいりたい。

渡島 カケロマの各学校の児童生徒数、地元出身生徒と地元出身でない生徒の学校ごとの割合、生徒数は増加傾向にあるのか、学校存続に向けた取り組み内容を伺いたい。

町長 昨年の被害額は、果樹類107万9千円、野菜類3万6千円、飼料作物143万3千円、工芸作物184万3千円となっている。

教育長 児童生徒数は全小学校で41名、全中学校18名で微増である。地元出身者の割合は、薩川小8名に対し50%、伊子茂小10名に対し60%、西阿室小8名に対し38%、諸

鈍小15名に対し60%、諸鈍中4名に対し50%、伊子茂中14名に対し43%となっている。今後も留学制度を推進し学校存続に取り組んでまいりたい。

渡島 留学制度を利用している児童は何名か、対象になる条件等は規定されているのか、現在どのような助成を行っているのか伺いたい。

教育長 留学制度を利用している児童生徒は小学校25名、中学校11名、与路小中学校里親制度は、小学校2名、中学校1名となっている。募集条件は保護者が一緒に対象校区に住み、子どもたちの育成に協力的である事となっている。

生徒一人当たり月額3万円、家賃の二分の一を一年間助成している。与路小中学校里親制度は、生徒一人当たり月額5万円を助成している。

渡島 バス通学の校区ごとの人数、事故を想定した対策を伺いたい。

教育長 バス利用者は中学生が薩川1名、芝1名、実久1名、西阿室3名、小学生は俵1名である。事故の対策は県と町建設課、学校、教育委員会で対応している。

教育長 統合についての要望等は出ていない。伊子茂中と諸鈍中の統合は

これまでの経緯を考慮すると、難しい問題であると思っっている。

中村 藻場造成事業について伺いたい。

中村 義隆 議員



水産業振興

中村 シラヒゲウ二種苗について伺いたい。

町長 シラヒゲウ二種苗については、令和元年度

から令和3年度までの3カ年計画で、奄美群島水産振興協議会を事業主体として「シラヒゲウ二等増殖推進事業」を地域振興事業として実施している。

今年度は、瀬戸内漁協で技術実証を行いながら、奄振交付金事業により機器整備・実証試験を経て、施設整備・運営に関して基本計画・設計をし、公設民営、民設民営等により将来的には、ブランド化を図り、水産物の売り上げ向上につなげたいと考えている。

町長 藻場造成については、白浜地区等において増殖等の試験を行ってきたが、思うような成果が上がっていないのが現状である。その要因は特定

されていないが、海水温の上昇や、家庭の雑排水及び食害等、様々な要因が影響していると推測される。

今後の藻場造成については、県の水産技術開発センターにより奄美群島内及び嘉鉄海岸沖で「階段状基質（核藻場）」を用いた藻場造成の手法の実証が行われており、その実証結果を踏まえて検討してまいりたい。

高潮による道路冠水

中村 8月19日（旧暦7月1日）前後4〜5日間ぐらい大潮で高潮の影響によりタケハラ電気、笹岡理髪店前の道路が冠水したが内容を伺いたい。

町長 過去にも幾度となく海面潮位の上昇時や豪雨等により冠水し、道路

利用者や周辺の住民には多大な影響を及ぼしていることは認識している。被害の解消を図るためには、強制排水や地下貯水槽の設置が冠水対策には有

効的であると考えられるが、用地取得を含む事業規模、それらに伴う予算等が膨大になることが想定される。

現在、推進している他の事業進捗、並びに今後予定している大型事業にかかる予算等を踏まえながら、早期に冠水対策の解消ができるよう関係機関と連携を図りながら、



網野子・節子線の現状

引き続き検討を進めていきたいと考えている。

道路行政

中村 町道網野子節子線の、節子集落の入口近くで、6月の大雨によって崖くずれがあり、防止ネットでかろうじてくいとめているが、いまだそのままである。今後の対応を伺いたい。

町長 6月の梅雨前線豪雨により崩壊した斜面については、現在も土砂が防護柵内に堆積している状況であり、土砂流出等の防止と通行注意喚起等の看板を設置しながら通行させている状況である。現在、対策に向け事業計画を検討しており、崩

壊した斜面の用地取得に向け調査を行っているところである。用地取得が

完了次第、対策に取り組んでまいりたいと考えている。

榊 藤光 議員



記念館の建設

榊 加計呂麻島文化館の建設について質問したい。

大奄美史を書かれまた、奄美群島の本土復帰運動に絶大な尽力をされ

検討していくことになる。考える。

古仁屋高校

榊 県立古仁屋高校については、後年の経営・運営について、県と協議された事はないのか、伺いたい。

町長 これまでに、学校の存続及び、海洋学科（仮称）新設についての協議を行った経緯はあるが、後年の経営・運営についての県との協議は行っていない。

町営定期船の運営

榊 フェリーかけろま定期船せとなみの運営を

第三セクターで起業化する考えはないか、伺いたい。

町長 現在のところ、その考えはない。

大島南部地域の振興

榊 大島本島南部地域



出港する「せとなみ」

は、曾津高崎を中心に焼内湾、大島海峡の風光明媚なリアス式海岸を特徴として水産業やマリンスポーツなどが盛んに営まれている地域である。また、この地域は古くから南西諸島の海の道として多くの船舶の往来や、国際避難港としても重要な地域である。また、この地域には古来より海との生活の里海文化がある。

この地域の水産、観光の振興策については「奄美大島総合戦略」ではどのような戦略を考えているか伺いたい。

町長 事業実績としては「奄美大島における水産業振興戦略の策定と島内人材育成・供給システムの構築事業」「奄美大島DMO（組織構築）事

業」「奄美大島サンセットプロモーション事業」が行われ、その中に瀬戸内町及び大島本島南部地域が対象に含まれている。

広域海洋観光圏の創設

神 奄美空港と徳之島

空港を利用する観光客が、快適で合理的な旅行プランのためにも、観光クルーズ船による、古仁屋港と徳之島港間を結ぶ2往復の観光コースの設定は、奄美の観光経済に多大な貢献をするとともに、古仁屋港が、請・与

路島・加計呂麻島の観光のハブ港として、また大島本島西回り観光コースへの繋がりも多と思うが、いかがか。町長の所見を伺いたい。

町長 「大島本島と徳之島」の広域観光圏については、12市町村が連携した「奄美群島観光物産協会」の中で取り組んでいきたいと思っている。

圏域

神 政府が進めていた新

たな市町村の合併の圏域に現在も合併に向けた市町村の動きもさらにあるとして、一つ目には自主的な市町村合併、二つ目に市町村間の広域連携、三つ目に都道府県による補完などの多様な手法の中から市町村が自ら選択できるようになりそうだが、この事について、町長の所見を伺いたい。

町長 現段階で、広域連

携、また自主的な合併、鹿児島県による事務の補完の必要性はないと考えている。

元井 直志 議員



町長 タバコのポイ捨て、ゴミの不法投棄対策としては、携帯灰皿やチラシの配布、広報誌への掲載等を行い啓発活動を実施してきた。今後も住民の意識向上を図るため、関係機関と連携し「不法投棄防止強化月間」における啓発活動や不法投棄パトロール強化、指導の徹底に努めていきたい。

世界自然遺産

元井 指定に向けてタバ

コのポイ捨て、ごみの不法投棄などが未だにあるが、その対策はあるか。

元井 条例化する必要があると考えるがどうか。

町長 ポイ捨て防止をよ



古仁屋小学校・屋外プール

瀬戸内町の水泳競技の低迷

り実効性のあるものにするためには、指導員の配置やパトロールの実施、関係市町村等の連携が不可欠であるので、条例は制定していないが、様々な機会をとらえ、粘り強く啓発活動を展開し、近隣市町村とも足並みをそろえて対処してまいりたい。

元井 昔の生徒は、自分で川や海で泳ぎを覚え

たものだが、今は安全性の面もありません。水泳にかける時間が少ないので泳げない生徒もいる。他地区と比較すると、年中活用できる施設がないからと思われる。

ゆえに温水プール（屋内）を作ってほしいかどうか。

教育長 町内各

校では体育の学習において10時間程度の水泳学習の時間を確保しており、学習の場としては、

本島側の小中学校は古仁屋小・中学校のプール、加計呂麻島、請島、与路島の学校においては学校近くの海岸を使っている。

温水プールの必要性は認識し、教育施設整備計画の中でプール建設を位置づけているが、老朽化した学校施設、体育館等の整備もあることから、全体的な教育施設整備計画の中で検討してまいりたい。

学校施設の充実

元井 教員住宅が不足しているのではと考えるかどうか。

教育長 先生方の人数に対し、教員住宅が不足し

ている学校がある。不足分に対しては、他校区にある教員住宅を紹介しているが、地域に根差した教育を推進するために、校区内に住むことが必要だと思っている。町全体の教育施設の老朽化対策も含めて検討してまいりたい。

元井 教員住宅の老朽化が目立つと思うがどうか。

教育長 築年数の古い教員住宅が多くなってきており、使用ができない住宅も出てきている。先生方の居住環境の整備を進めることで、子供たちの教育への充実につなげていきたいと考えているところである。整備する上では、町全体の教育施設

の充実を含めて検討してまいりたい。

元井 築後40〜50年経過した教室等建物が多いようであるが、更新等は考えているのか。

教育長 各学校において学校施設の老朽化が進んでいる。町全体の整備改修計画を立て、順次、整備してまいりたい。

元井 全体的に、学校の遊具施設が不足しているように感じるがどうか。

教育長 学校遊具について、老朽化等により安全性が確保できないため撤去をしている遊具がある。補修等を含め年次ごとの整備を進めてまいりたい。

池田 啓一 議員



防災

池田 気象庁が最大級警戒を呼びかけた台風10号は、奄美では幸いにも思っていた程の被害もなく通過した。

近年、地球規模の温暖化による異常気象が騒がれて久しい。超巨大台風、ゲリラ豪雨、線状降水帯

また、記録的な猛暑・大寒波、そして高潮等自然災害には色々あるが、今回は水害対策について伺いたい。台風や豪雨により何度も被災している地区があるが対策は？

町長 浸水・冠水被害が解消できるよう関係機関と連携を図り検討を進めていきながら、極力被害が軽減できるよう、努めていきたい。

池田 古仁屋市街地の高潮対策は？

建設課長 逆流防止策を検討したい。

池田 平成20年度以降の

浸水・冠水状況は？

建設課長 古仁屋市街地5回、節子集落5回、秋徳集落4回、西阿室集落3回である。

池田 古仁屋市街地の浸水対策は？

町長 抜本的な対策は、

多大な予算になるので、他の事業への影響等も検討しながら、また、関係機関と連携を図りながら進めていきたい。

池田 山からの水を川に誘導し、道路に流さない。各地区、地区でポンプアップして多大な予算を使わずに出来ることもあると思う。

池田 各集落の対策は？

建設課長 西阿室

集落については、山裾に新たな水路計画を立て、集落と話を進めている。秋徳集落については、河川の土砂上げ等を行い、また、河川に導流堤を検討したい。

農林課長 節子集

落については、新たな水路計画に向けて、学校周辺の用地買収に動いている。

町長 防災行政無線については、新たな戸別受信機を来年度から設置する。

池田 集落水道について伺いたい。

町長 「瀬戸内町集落水



浸水による市街地の道路状況

道施設改良事業等に対する補助金要綱」に基づいて対応している。

児童公園の整備

池田 加計呂麻島に遊具を設置した公園が必要だと思いが計画は？

町長 「奄美・瀬戸内地域公社」の建設を瀬相に計画しているが、その横に多目的広場も計画している。

その広場に遊具等を設置したい。

船舶交通

池田 フェリーかけろま・せとなみの欠航時の対応について伺いたい。

町長 安全基準の範囲内で、可能な限り本船が運航できるように努力したい。

池田 せとなみの新造船計画の進捗状況について伺いたい。

町長 10月から「内部組織」を立ち上げ全体のス

ケジュール等の確認に入りたい。

有害鳥獣対策

池田 駆除費の値上げは

できないか？

町長 近隣の市町村の報奨金等の動向に併せて、また、捕獲対象期間の延長についても検討したい。

澤 佳男 議員



まったのはいつか。

保健福祉課長 昭和55年から、巡回診療を開始している。

巡回診療の現状

澤 この巡回診療がはじまった当初の年間の受診者数と、現在の受診者数を比較すると、どの程度減少しているのか。

課長 正確な数字は手元に資料がないのでわから

ないが、わたしの感触では当時の人口ベースと現在の人口ベースを加味すると、相当数心情としては減っているという認識をもっている。

澤 昭和55年といったら、1万5千人位いたかな、町の人口は。

町は、現在9千人足らずだけど、加計呂麻島の人口減少はもっとはげしいから、半分程度ではすまないのでないかと思う。

巡回診療が開始された当初は、人もたくさんいて受診する人も大勢いただろうから、そのころには有効であったし、効率的であったと思う。

しかしそういう時代を経て、どんどん過疎化が進んで、いまの加計呂麻

島の人口は1200人足らずだと思うが、激減していった。

巡回診療車による診療体制は、最初の頃と今とは、どういふふうに違っているのか。

課長 診療の形態としては、医師と看護師が現地におもむいて診療するという、基本的なかたちは変わらないと考えている。

澤 診療車の規模も、変わらないのか。

課長 平成30年に新たな診療車を運用開始しているが、それまでの大型バス程度の大きさの診療車から、だいぶ小さくなって

現段階のニーズに適用できるようなかたちでの診療車として運用している。

澤 診療車事業が、はじ



現在の巡回診療のようす

澤 当初に比べたら非効率な経営になっていると思うが、現在は診療車とか人員とかいろんな経費を考えた場合、患者さんの数が減っても経費の方はあまり変わらない、というのが巡回診療の現状か。

課長 たしかに各地区を巡回する上で、医師看護師、事務職員等を拘束するし、また燃料費等にお

いても、基本的に経費はそれほど大きく変わるものではない、と考えている。

巡回診療は現状のままでもいいのか

澤 この巡回診療が開始

された当初は、有効で効率的でない事業であったと思うのだが、人口が激減していくなかで、いまもなお、事業開始当初と

つながるのか、検討してみるのが必要かあるのかなかと思いが、いかがか。

課長 長い年月にわたりこの形態のなかで、無医

地区である加計呂麻島、または西方のほうに巡回診療をして、ひじょうに地域に根付いたかたちで、住民の健康等をサポートしてきた。

ほとんど同じような形態で診療が続けられていることに、このままでもいいのだろうか、と考え

させられるところがある。

今後、どのような方が住民のしあわせに

このかたちに関しては、現段階においていまのままがよろしいかなと思つ、ことはある。

ただし、今後においてはますます人口減少、高齢化、さらには経営としてもきびしい状況のなかにあつて、新たな道も含め

模索する時期にきているのではないか、というふうには考えている。

向野 忍 議員



新型コロナウイルス感染拡大防止策と経済再生対策

にあり、更に昨今のコロナ禍により、医師の派遣・診療が出来ない状況が予測される。常駐看護師とICTを活用し、オンライン上で島民と医師をつなげ診療できる方策を構築することにより医療環境を整え、島民の安全安心の確立に取り組んでいく。

向野 請島・与路島におけるICT（情報通信機器）を活用した遠隔診療等、離島医療の充実強化について伺いたい。

町長 請島・与路島は、地理的要因から医療環境としては常に厳しい状況

向野 コロナ禍によるテレワーク等の働き方改革により今後、産業の地方分散が予想される。企業誘致と受け入れ態勢の整備、同時に地元企業の育成強化と新たな産業の創出、企業支援等の取り組みについて伺いたい。

町長 企業の離島への関

心度合いを注視するとともに、離島へ企業を誘致できる民間企業の人材を確保し受け入れ態勢を整えていきたい。

地元企業の育成については、引き続き予算確保に努め、公共事業の実施、各種産業に対する補助事業を行う。

新たな産業の創出、起業支援等については、特産品の商品開発及び先端産業等の調査研究に努め、起業家支援に関する既存の補助制度の充実を図っていきたい。

空き家対策

向野 老朽危険空き家等の対策について伺いたい。

町長 本年度7月30日付

けで老朽危険空き家等除去促進事業補助金交付要綱を改正し、非木造の建物の補助限度額を引き上げた。10月に空き家特措法上の瀬戸内町空き家対策計画の策定、協議会の設置等を行い、今後の老朽危険空き家対策の促進を図って行きたい。

「せとなみ」フェリーかけろま」の航路運賃の軽減

向野 「せとなみ」の運賃に対し、地域公共交通

確保維持事業等を活用した航路運賃の軽減等はないか。

町長 運賃設定の基準額

で計算すると、現在の運賃は、基準よりも「安い」設定になっているた

め、割引運賃の適用にはあたららない。

向野 加計呂麻島住民に

対する「フェリーかけろま」の運賃割引を、中渡し時に利用する請島・与路島住民にも、3離島住民平等の立場から適用出来ないか。

町長 国・県と協議したい。

請島・与路島における学校存続対策

向野 請島・与路島住民

には未就学児がいないため、今後の学校存続に黄色信号が灯っている現状にある。

町内から請島・与路島に移住し、子育てを希望するUターン者に対し補

助等が考えられないか。

「にはほんの里加計呂麻留学制度」

の募集条件である「町外からの」小

学1年生から中学3年生までを「町内を含

む」とし、月額3万円の助成や家賃の2分の1の助成等が受けられるよう出来ないか。

教育長 請島・与路島に

おける、1島1校制度は、教育行政の重要施策である。



接岸中のフェリー-かけろま

学校存続の施策として「にはほんの里加計呂麻留学制度」を推進しているが、池地小・与路小中については、留学生の対象を町外から町内に拡げる要項改正を進めていく。

声

蘇 龍ノ介 (25)



25歳で編成
する、古仁屋
青年団の団長
をつとめている。
今年はコロ

ナ禍のなかにあつて、青年団活動にはほとんど手を付けられないまま、団員とささやかな活動を続けている。

昨年末にふるさとの古仁屋に戻ってきた。経営を学びたくて福岡の学校に行き、仕事について6年余り、青年団活動をするために予定通り25歳を前にして帰ってきた。小学校から高校まで、9年間バスケットボールに打ち込んできた。

いまは、自分の生きる道を模索するのに一生懸命で、町政のことや議会のことを考える余裕もないが、これからはもっと広い視野を持って社会と向きあっていかなくは、と思っている。



任期を終える10人の議員

編集後記

令和2年9月の定例議会を終えて、わたしたちは、四年間務めた任期のほぼ最後を迎えることとなった。

この間、議会基本条例を制定し、初めての議会報告会等も開催し、議会活動に取り組んできた。

しかし住民のニーズも複雑多様化しており改革できなかった部分もあったので、これからも住民の立場に立った議会活動に努力していかなければならないと考えている。

われわれ議会は、今後も町執行部との切磋琢磨を重ね、町の活性化に貢献

議会報編集委員会

委員長 澤 佳男
副委員長 元井 直志
委員 岡田 弘通
委員 向野 忍
委員 池田 啓一
委員 柳谷 昌臣
委員 昇 克己